

みんな伸びる

1学期も残り少なくなりました。 お子様の様子はいかがですか？

学校には様々な子供たちがいます。スポーツが得意な子や苦手な子、学習が得意な子や苦手な子、友達との関係がうまく築けない子、家庭の状況で思い悩んでいる子、生活のリズムが整わず、朝学校に行くのが苦痛になっている子などです。学校では、職員がこれらの状況を注意深く受け止め、寄り添い励ましたり、時には叱ったりしながら成長を見守るなど指導を重ねているところです。

しかし、保護者や先生・友達など周囲からも分かりにくく、また子供自身もどうしていいかわからないため、支援や適切な指導が受けられないまま、さらに様々な問題が派生していくことがあります。

お子様の変化はありませんか？よく観察してみましょう。

表情がなんだか暗くなった。

言いたいことがうまく言えないで、イライラしてよくトラブルになるみたい。

文字は読めているようだけど、意味が理解できないみたい。

聞くことが苦手みたいで、同じことを何回も聞くのよ。先生の言うことが分かってるのかしら。

いつも、せわしなく体が動いて、落ち着きがない。話を聞いていないようす。

思いつくとすぐ行動してしまって失敗してしまう。けかも多いわ。

ひらがなは読めるけど、書けない。どうしてかしら。

自己主張が強く、依存心も強い。友だちともうまくいかないようす。

勉強が分からなくなってきているみたい。

いつも散らかっていてどこに片づけるのか分からない。忘れ物も多いけど大丈夫？

ちょっとしたことで、激しいパニックになってしまって……。このごろトラブルが多くて心配。

少しでも改善や克服できれば自信や自己肯定感が生まれます。

こじらせてしまうと・・・2次障害へ

お子様の性格やタイプによって「内向き」や「外向き」かに分かれて具体的なサインや行動が違います。

内向きタイプ

登校渋り・不登校

SOSが見えにくい

「どうせぼくなんて」という自己否定・朝の頭痛・腹痛・吐き気・こだわり・イライラが強くなるなど。

外向きタイプ

激しい反抗・暴言・暴力

問題行動に見える

家でのモノ壊し、八つ当たり、注意をひくための嘘やわざと困らせる行動を起こす・チック・自傷行為（自分の頭を叩く・髪の毛を引き抜く・爪をかみちぎるなど

子どもが「できないこと」叱って修正するのではなく、「環境を変えて、できる体験を増やす」ように学校と連携することが大切です。学校では、視覚的な支援・環境の調整・学習の工夫など保護者の依頼があれば、個別の支援計画を立てます。同時に家庭での「安全基地」づくりにも、具体的に相談に乗ることができます。また、学校以外のサードプレイスの活用も有効です。学校以外のお子様の居場所づくりとして、放課後デューサービスの活用も考えられます。

小さな失敗・叱られるなどの負のイベントが重なると

学業不振・いじめ・過剰な期待に押しつぶされる・理想の自分と現実の乖離・自尊心の低下

思春期に大きな影響があるかも

学校では特別支援コーディネーターが、教育相談を行い、保護者の要望を受けて「校内支援委員会」の運営をします。その児童は特別な支援が必要か、また他に適切な支援はないか、関係のある校内の様々な先生と会議を開きます。

また、このほかに「外部機関との連絡・調整」「特別支援教育に関する保護者の相談窓口」の仕事もしています。

みんな生まれ持った特性をもっています。それは、しつけや育て方のせいではありません。必要なことは子ども自身が正しい自己認知を進め、環境調整とスキルやパターンの獲得です。そして自立して、社会性を身に付け、社会の中で自分らしく幸せに生きていくことです。

これからも、不定期ですが、特別支援教育についてお伝えしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。